

農産物の6次産業化による雇用機会の創出

～地元特産物の加工品開発と国内外への販売展開～

【概要】

野菜主体の個人経営を規模拡大し、法人化するとともに、加工部門を立ち上げ、ながいも、にんにく、ごぼう等、野菜の生産から加工、流通、販売までを手がけている。

6次産業化や海外輸出に取り組むことで、作業員や事務員などの地域雇用を生み出している。

【対象名】

有限会社柏崎青果
代表取締役 柏崎進一

【背景・課題】

- ・法人経営を安定化するため、野菜を一次加工するなど付加価値を高めて販売する必要があった。
- ・販売量拡大に向け、加工原料の安定確保と販路の開拓が必要となった。



にんにく畑にて

【取組の内容】

- ・自社ほ場では、ながいも、にんにく、ごぼう、たまねぎ等を生産するほか、新たな加工品開発に向け、キクイモ等を試験栽培している。
- ・カットながいも等、消費者が利用しやすい形状に加工するとともに、加工の際にでる端材を無駄なく利用した加工品づくりをしている。
- ・商品は県内のスーパーや、JR・空港の売店、県外では、関東地方のスーパーや関西地方の生協等で販売している。
- ・海外での販売活動を展開し、主力商品の「黒にんにく」はアメリカをはじめとする20か国、「ながいも」はアメリカ、台湾等に輸出している。

<販売額の推移>

(単位：億円)

H5	H10	H15	H20	H25	H30	R1
3.3	9.8	10.0	11.7	12.9	13.9	13.9

【成果（収益性アップ）】

- ・令和元年度の販売額は約13億9千万円で、うち輸出金額は約1億円となっている。
- ・加工部門を立ち上げたことで、約105人ほどの地域雇用を生み出している。
- ・契約農家から規格外品を含め原料を買い取るとともに、自社が集荷・選果を行うことで、生産者の負担を軽減し、所得の向上に貢献している。